

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
補益剤 補陽剤 8		
きろくにせんきょう 亀鹿二仙 膠	温陽益気・填陰補精	鹿茸 5k g・亀板 2.5k g・枸杞子 1.5k g・人参 0.5k g 煎じつめて膠にし、毎朝9g ずつ酒か塩湯で溶解して服用する。
医方考	<p><主治> 命門陰陽両虚 元気がない、疲れ易い、息切れ、るい瘦、四肢の冷え、腰や膝がだるく無力、視力減退、陽萎（インポテンツ）、不妊、舌質が嫩、脈が細で無力など。</p> <p><病機> 陰損及陽、陽損及陰により命門の陰陽が共に虚した状態であり、全身的な虚弱の症候がみられる。腎虚の症候が主体にはなるが、腎一臓だけでなく全身の虚衰による症候である。</p> <p><方意> 命門の陰陽を双補する。 鹿角膠は督脈を通じ真陽を補充し陰精を培補し、亀板膠は任脈を通じ填精滋陰し、2種類の血肉有情の品によって陰陽を峻補し気血精髓を生じさせる。大補元気の人参と滋腎養肝の枸杞子も陰陽を双補する。全体で壮陽填陰、益気生精の効能が得られる。</p> <p><参考> 本方（亀鹿二仙膠）は、慢性に経過する虚弱症候、特に神経筋疾患などに有効である。</p>	